児童の実態

全体の見通しをもって積極的に学習を進めていく力が弱い。

教育目標

◎自ら学ぶ子
思いやりのある子
たくましい子

教師の願い

学びを自覚し、成長を実感することで、自信をもってほしい。

研究主題

学びを自覚しながら、主体的に学ぶ児童の育成
～次につながる振り返りとは・・・～

目指す児童像

自分の学びを振り返ることで、次の目的や見通しをもちながら学習を進めていける児童

研究仮説

教科・単元や発達段階に応じた振り返りを設定し、次につながる振り返りを行うことで、学びを自覚しながら主体的に学ぶ児童が育つであろう。

研究主題に迫るための手立て

＜児童の思考を意識化するための手段＞

☆２方向の振り返り☆

①学びの文脈化を図ること（縦軸）
「何がわかったか。」「何を考えたか。」等
②学びの過程を振り返り、見通しをもつこと（横軸）「課題解決のどこにいるのか。」「次は何をするのか。」等

←課題解決のどこにいるのか。（横軸）→

課題解決のプロセス

↑
何がわかったか。
できたか。（縦軸）
↓

☆シングルループとダブルループを組み合わせた振り返りの問い☆

シングルループ
その授業がどうであったかを問うもの

ダブルループ
授業の前提や枠組みがどうであったかを問うもの

☆eduScrum を活用した授業づくり☆

○児童が、見通しを具体的にもつ。
○児童が、今の自分たちの状況をグループで共通理解する。
○児童が、自分の役割だけでなくグループ全体のためにできることを考えて行動する。

＜メタ認知的な児童の思考＞

モニタリング・・・意図したことと対象とを照らし合わせ見渡すような知的営み
「気づき」（例：これって、何か変だ。）
「感覚」（例：なんだかちがうような気がする。）
「予想」（例：これなら解けそう。）
「点検」（例：この言い方でいいかな。）
「評価」（例：これで納得できる。）

コントロール・・・対象について取るべき行動を制御すること
「目標設定」（例：自分が納得できるレベルにまでもっていこう。）
「計画」（例：わかっていることから手をつけよう。）
「修正」（例：さっきとはちがうやり方にしてみよう。）